

■伊達順之助 大陸浪人。日本人"馬賊"で中国名は張宗援。大陸へのロマンを象徴、満蒙独立運動や山東自治軍に参加した。

だてじゅんのすけ

大本教・・・1892＝ 東京で、仙台知事伊達宗敦の六男に生まれる。

日清戦争始・1894＝ 2歳：

父は宇和島藩主伊達宗城の次男で、仙台藩主伊達慶邦の養嗣子になったが、維新で賊軍になったものの、父宗城の関係で零落を免れたばかりか、男爵を受け、貴族院議員になっている。

田中正造直訴1901＝ 9歳：

戦国武将伊達政宗の直系子孫で、華族の子というわけであるが、素行が悪く、

日露戦争終・1905＝13歳：

麻布中学に入るも、刃傷沙汰を起こして退学処分、

慶應義塾中等部、学習院から、立教中学を転々、無銭旅行で、初めて満洲に渡るなどするが、

伊藤博文暗殺1909＝17歳：東京明石町の路上で、縄張り争いから不良学生を射殺し、東京地裁では懲役12年となるが、

韓国併合・・・1910＝18歳：伊達家の弁護士の策で、控訴審判決で、懲役1年、執行猶予3年の判決、

大逆事件判決1911＝19歳：父が死去したからか、大木高任の長子で大物政治家の大木達吉の家に寄寓、

明治天皇没・1912＝20歳：

海城中学校に編入後は、学問熱心になり、善隣書院で儒学を学んだりする一方、国粹主義者でもあった大木の家に集まる満蒙独立運動主義者らの影響を受け、

第一次大戦始1914＝22歳：ようやく、中学校を卒業。

善隣書院の同志らと、{満蒙決死団}を結成して、

民本主義・・・1916＝24歳：*川島浪速が肅親王善耆らとおこした第二次満蒙独立運動に参加すべく渡満、その挫折後、川島に連れられ、日本人馬賊のシンボル天鬼將軍薄益三の弟守次に紹介される。

ロシア革命・1917＝25歳：なお、バボージャブ軍の残党とハイラル襲撃を決行、中国官憲に捉えられ、退去処分となって帰国。右翼団体の{老社会}{猶存社}の有力メンバーとも人脈をつくり、

ㇰ勝仁条約・1919＝27歳：

大暴落・・・1920＝28歳：宮中某重大事件では、頭山満、北一輝らに従い、山縣有朋暗殺計画を企てて、無鉄砲ぶりが問題になり、

原敬首相暗殺1921＝29歳：大木によって、伊達家の臣筋の斎藤実が総督を務める朝鮮総督府に就職させられ、渡鮮して、新義州の国境警隊長となるが、今度は、朝鮮人の抗日運動に激しい憎悪を抱き、秘密裏に運動家を処刑したという。

関東大震災・1923＝31歳：大震災で混乱する東京を視察して、朝鮮に戻ると、*満洲側にあった抗日運動朝鮮人の拠点集落を襲撃し、一般民まで虐殺。さすがにやり過ぎであると、退職させられ、帰国するも、問題児の居場所は無く、

護憲三派圧勝1924＝32歳：大木の差配で、奉天軍の顧問少将に招聘され、この年、第二次奉直戦争が始まるように、幣原国際協調外交の矛盾となる満蒙特殊権益の保全に対応して、多くの日本軍人が顧問として軍閥に食い込むことが多くなるが、

共産党事件・1928＝36歳：張作霖爆殺計画に参加するも、陸軍の下請け、御用馬賊の存在で、張作霖軍閥の張宗昌と義兄弟の契りを交わし、小磯国昭の勧めで中国籍を取得、張宗援と名乗る。

世界恐慌・・・1929＝37歳：満洲事変が始まると、活気づいた馬賊の一人として熱河作戦に参加、

満洲事変・・・1931＝39歳：満洲国が成立すると、満洲国軍付きで、少将の待遇を受けるが、正式な軍人にはなれるはずもなく、

五一五事件・1932＝40歳：

日中戦争始・1937＝45歳：*日中戦争が始まると、中国人の雑兵率いて、山東に進駐、山東自治軍となり、それなりの評判も得たが、

第二次大戦始1939＝47歳：掖城事件が勃発して、解散、

日米開戦・・・1941＝49歳：

青島で貿易商をしていたが、

敗戦・・・1945＝53歳：*中国官憲によって、日本人戦犯として、子宗義とともに連行され、収容所に送られる。宗義は釈放となるが、自らは起訴され、死刑の判決が下り、

新憲法公布・1946＝54歳：

上海監獄に送られ、

極東裁判判決・1948＝56歳：銃殺刑に処せられた。

馬賊小説の金字塔とされる壇一雄「夕日と拳銃」(1956年)の主人公のモデルである。